



石部南学区

まちづくり協議会広報

平成25年7月15日発行

第25号

広報部会

発行：石部南学区まちづくり協議会 湖南市石部南 3-5-1 石部南まちづくりセンター内 電話 0748-69-7068

第一回 ふれあいフェスタ開催される

6月16日(日)午前9時より石部南まちづくりセンターおよびじゅらくの里において、第一回のふれあいフェスタが開催されました。パターゴルフはじゅらくの里のコースで、グラウンドゴルフはセンターのグラウンドで、センター広場ではフリーマーケットと模擬店が開かれ、学区内各地区から集まった人々でにぎわいました。パターゴルフとグラウンドゴルフは、各選手がそれぞれ腕を競い合い、賞を獲得した選手は、喜びをかみしめておりました。

また、医療生協こうせい駅前診療所より「健康チェック・健康相談」が開設され、90名の来訪がありました。

メイン会場



グラウンドゴルフ



パターゴルフ



第1会場まちづくりセンター

第2会場
センター裏のグラウンド



第3会場
じゅらくの里



表彰式



昨年度に引き続き、安心と安全なまちづくりをスローガンに「ハートフルベンチ」を製作します。

◆かまどベンチ・・・雨山文化公園、石部南幼稚園、阿星保育園、阿星屋外ステージ、近江学園

◆ソーラー発電照明、防災掲示板・・・石部中学校、じゅらくの里

学区民、みんなで造り上げましょう。



部会活動

福祉部会



大島会長

開会挨拶



山元部会長

こどもドッジボール大会

5月26日(日)石部南小学校グラウンドにて福祉部会のこどもドッジボール大会が開かれ、各区より多数の子どもたちが参加しました。各年齢別にチームを編成し、強さを競い合いました。競技終了後、おにぎりとお肉汁でお昼をいただきました。



全員集合

環境部会

ゴミ拾いウォーク

6月30日(日) 部会活動として学区内の通路のゴミ拾いを、ウォークを兼ね実施しました。多くのゴミを回収し、大変きれいになりました。



生涯学習部会

「いもち送り」松明づくり

6月22日(土)に、西寺地区のいもち送り用の松明を30本余り作りました。秋には、稲熱病なしの美味しい「近江米」が実ります。



委託事業

6月29日(土) まち協部員がまちづくりセンターに集合し、ふれあい広場やセンター一周辺の植木剪定・運動場の草刈、垣根剪定等を実施しました。

まち協拠点を美しくし、利用者が施設を気持ち良く利用できる環境にしました。

ふれあい広場



運動場(垣根・法面)



センター前植木



奉 仕 作 業

石 部 中 学 校

もみじ・あざみ

奉仕日 : 7月1日(月) AM 8時～ 12時



学区内の石部中学校及び福祉施設「もみじ・あざみ」の草刈奉仕作業を、住民と一緒に実施しました。



施設紹介 特定非営利活動法人 いしべ共働作業所

みなさん、作業所ってご存知ですか？ 作業所とは障がいのある人たちが地域の中で共に働き、生きていくための場所です。 当作業所は昭和62年4月（株）川合製作所内で発足し、平成13年9月に現在の場所に移転、平成20年に新体系移行に伴ってNPO法人となり、現在に至っています。 定員は20名で就労移行支援事業および就労継続支援B型事業のサービスを提供しています。 就労移行支援事業は企業就労に必要な知識、能力を向上させるため日々の訓練を実施して2年以内での就労をめざしています。

また、就労継続支援B型事業は、通常の事業所に雇用されることが困難な方に、就労の機会や生産活動の機会の提供を行っています。主な仕事は施設の中では、紙袋の加工や冷蔵庫部品の組立等が中心ですが、最近では施設外の仕事にも力を入れており、工場敷地の緑化作業や公共施設の清掃、リサイクル品の仕訳、各種部品の仕訳・梱包、農作業等に取り組んでおります。みなさん、一度作業所に足を運び利用者の仕事ぶりを見てあげてください。お待ちしております。

執筆者 森田数雄



石部南学区まちづくり協議会のホームページアドレス

<http://www.ishibe-minami.net/>

メールアドレスは info@ishibe-minami.net

各自治会活動だより

宝来坂区

7月7日の自治会主催「河川愛護活動」に、住民100人強が参加し立石川がきれいになりました。鮎やハエも沢山います。次年度は、ホタル飛翔と河川愛護を維持していきます。



5月18日(土)かなかなサロン5月例会は「パターゴルフを楽しもう」でじゅらくの里ゴルフ場で満喫しました。景品の地元近江米「キヌヒカリ」は大好評でした。



西寺・丸山区

7月4日(木)夕方より農業者が田圃に集まり、稲の生育状況を見回りました。株張りや葉色および幼穂によって穂肥をやるタイミングを見極めました。



宮の森区

6月26日(土)滋賀ボールにて子どもボーリング大会が開かれ、年長以上35名の子どもたちが参加し腕を競いました。大会最後に全員が参加賞をもらって皆大喜びでした。



第4回防災訓練参加者募集

実施日 : 平成25年8月10・11日(土・日)

場所 : 石部南まちづくりセンター周辺

◎詳細は自治会回覧・ゴミステーション掲示物で確認ください。



【常楽寺】(前回からつづき) ここで三重の塔にふれるが、延文5年の雷火で観音堂と同時に焼失し塔跡が残っていたが常楽院と同じく塔の再興をはかったが用途金が集まらず、応永5年(1398)615年前「僧慶禅」の勸進状や応永7年5月瓦の篋書などから考えると、この時期に竣工したと思われる。だが、寺の用途金が不足し工事人にも代銀が支払えずに人々に奉加を仰ぎ、工を起こしてから4年の歳月を経て竣工に至ったのである。焼失後38年目の再建である。

当時の常楽寺は千手千眼観音菩薩像と十一面観音菩薩像の観音堂があり、これが主堂であった。今秘仏である千手観音菩薩は火災の際に救い出されたというが本像の造立期は本堂再建時と一致するとあり安置された時期は不明である。

千手観音菩薩像は木造坐像で像高63cmで(重要文化財)で南北朝時代の(春日の作とある1331~1389)682~624年前であり、その両脇に毘沙門天と不動明王を脇侍に厨子に安置されている。

須弥壇裏に藤原時代の作といわれる釈迦如来像(半丈六)(重要文化財)で以前は像を安置する釈迦堂があったが明治37年に本堂の大改修に設けられた後陣に安置されている後頭部に別財(輪がある)像内平滑り布張りを施して黒の漆を塗布している。これはあまり見られない入念な仕上げであり外から見えない部分はノミのあとが残っているとある。又その他に普賢・文殊の2菩薩が安置されている。その後常楽寺も戦国時代をむかえて、周辺の村々は戦火にあい、民は大半が家を失った。(元亀元年)(1,570)443年前のことである。

信長は石部を焼き、佐々木六角氏を追って東西寺をも焼くべく兵を進め、多くあった坊や、民の住み家は焼失した。又、それまで東西寺各寺を六角の軍勢が守っていたが信長の軍勢を前にして四散してしまった。信長は西寺の常楽寺の悠然とした、たたづまいに焼く事が出来ず仏前において戦勝を祈って奉納相撲を行ったと伝えられている。常楽寺が戦火に遭わなかった理由は色々の説があるがこれが本当ではないか。又、長寿寺もその時の兵火により坊等は焼失したが本堂だけは残った。東西寺両寺は信長の保護を得て、焼き討ちを逃れた。東寺西寺は、その後元亀2年(1571)442年前に織田信長は東寺村西寺村と称して独立を指導した。それまでは石部三郷といって石部の5村と行動を共にし、石部総村が建設され道を挟んで家が建てられた。これが石部・東寺・西寺三村の始まりであると思われる。

常楽寺も長年の風雪に耐え、又色々の事件の内から現在の姿が有するが多くの信者の苦勞の結集であると思われる。度重なる修復がなされているが記録により近年では元禄7年(1694)319年前本堂の屋根が大破し千手観音菩薩を特別に開帳して修繕費の費用を捻出し仮普請を行った。とあるが33年後の享保12年(1727)286年前屋根は修復されたが本堂の傷みが大きくなり、工事費の助成の為に、この時も本尊の開帳を2月18日~3月18日迄30日間実施された。その後、前回の修理より100年後の天保2年(1831)本堂の修復が計画され、(深が谷)の寺山の木材が売却され修復費用が捻出されたとあり明治期に入り38年に本堂を半解されて大改造がなされた。屋根は昭和16年に大改修が施行された。その他にも[三重の塔][三聖神社][他堂]の管理修繕に大きな苦勞がなされたであろうと思われる。今後2国宝を始め多くの建造物を信徒ならびに信者が後生に残してゆかなければならないものである。